corega

WLCB-11 V2

取扱説明書

作業の流れ

PART1
まず準備が必要 1

PART2
本製品をパソコンに
取り付けよう 2

PART3
無線LANの
設定をしよう 3

PART4
トラブルや疑問
があったら 4

付録 付録

本書の「安全にお使いいただくために　必ずお守りください」(P.2) を必ずお読みになり、正しく取り付け・操作を行ってください。

PN J613-M7423-00 Rev.A

作業の流れ

本書では、本製品を使って無線LANに接続するまでの作業をPARTに分けて説明しています。各PARTでの作業は次のとおりです。順番に読んで、作業を進めてください。

PART1

まず準備が必要

① 添付品の確認
② 使用環境の確認
本製品を取り付けられるパソコンの条件や対応OS、通信相手の機器の設定などを確認してください。
③ 各部の名称と機能の確認

PART2

本製品をパソコンに取り付けよう

① ソフトウェアのインストール
添付のCD-ROMからユーティリティーをインストールします。使用するOSに対応した箇所を読んでください。
② 本製品の取り付け
本製品をパソコンのPCカードスロットに取り付けます。
③ 本製品の動作確認
本製品をパソコンに取り付けたら、本製品がパソコンに正常に認識されているかどうか確認します。使用するOSに対応した箇所を読んでください。

PART3

無線LANの設定をしよう

① パソコンのネットワーク設定の確認
② 無線LANの設定
添付のユーティリティーで設定します。
③ 接続状態の確認
④ セキュリティーの設定
必要に応じて、通信内容の暗号化の設定をします。

ここまでの作業が終われば無線LANに接続できるようになります。以降は、必要に応じて読んでください。

PART4

トラブルや疑問があったら

PART3 までの作業で無線 LAN に接続できなかった場合には、このPART を読んで解決方法を探してください。

付　録

付録

本製品の仕様、工場出荷時の設定に関する説明があります。

安全にお使いいただくために　必ずお守りください

本書では、製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表しています。

⚠警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

	感電の可能性が想定されることを示します。		発煙または発火の可能性が想定されることを示します。
	けがを負う可能性が想定されることを示します。		高温による傷害の可能性が想定されることを示します。

障害や事故の発生を防止するための、その他の注意事項は次のマークで表しています。

	電源プラグを抜く 電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

⚠警告

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

火災や感電の恐れがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触れると、やけどの恐れがあります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度90%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外しのときの注意

パソコンのPCカードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ず本取扱説明書、およびご使用のパソコンの取扱説明書を参照の上、正しく行ってください。

長期保管時は袋に入れて

本製品を長期間ご使用にならない場合は、パソコンから取り外して必ず添付の袋（静電防止）に入れて保管してください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください）。

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。
また設置の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
  電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の周波数を変更して、混信を回避してください。
3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

はじめに

このたびは、「corega WLCB-11 V2」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本製品はCardBus対応のPCカードスロット（Type Ⅱ）でお使いいただくIEEE802.11b対応の無線LANカードです。本書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでも参照していただけるように、大切に保管してください。
本製品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせします。

コレガのホームページ　http://www.corega.co.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注意!	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	WLCB-11 V2のことです。
「 」−「 」−「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

作業の流れ …… 表紙裏
安全にお使いいただくために　必ずお守りください …… 2
ご使用にあたってのお願い …… 4
お手入れについて …… 4
電波に関する注意 …… 5
はじめに …… 6
本書の読み方 …… 6

PART1　まず準備が必要 …… 9

添付品の内容を確認しよう …… 9
使用環境を確認しよう …… 10
　チェック１　パソコンの環境は問題ないですか？ …… 10
　チェック２　無線 LAN でどんなことをしますか？ …… 10
　チェック３　通信相手の機器は準備できていますか？ …… 12
　チェック４　通信環境は問題ないですか？ …… 13
　チェック５　設定に必要な情報は準備できていますか？ …… 13
各部の名称と機能を覚えよう …… 14

PART2　本製品をパソコンに取り付けよう … 15

ソフトウェアをインストールする …… 15
本製品をパソコンに取り付ける …… 18
本製品が正しく動作しているか確認する …… 21
本製品の取り外し …… 23

PART3　無線 LAN の設定をしよう …… 24

パソコンのネットワーク設定を確認する …… 24
無線 LAN の設定をする …… 32
接続状態を確認しよう …… 38
セキュリティーの設定をしよう …… 40
ユーティリティーを見てみよう …… 43
　ユーティリティーの画面を表示する …… 43
　「AP 検索」タブについて …… 44

「バージョン情報」タブについて …… 45

PART4　トラブルや疑問があったら …… 46

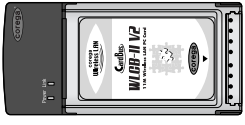
解決のステップ …… 46
取扱説明書を再確認する。管理者に確認する …… 47
Q&A …… 47
本製品用ソフトウェアのインストールができない …… 47
「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない …… 48
「デバイスマネージャ」で「×」が付く …… 48
ソフトウェアを削除するには？ …… 49
通信ができない …… 50
ユーティリティーに表示されないタブがある …… 51
より安定した通信をするには？ …… 51
通信速度が遅い …… 51
「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない …… 52
ホットスポットサービスを利用するには？ …… 53
最新のドライバーやユーティリティーを入手したい …… 53

付録 …… 54

製品仕様 …… 54
工場出荷時の設定 …… 55
MACアドレスについて …… 55
おことわり …… 56
保証と修理について …… 57
製品に関するご質問は …… 58（巻末）

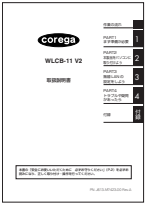
添付品の内容を確認しよう

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですがご購入元までお問い合わせください。



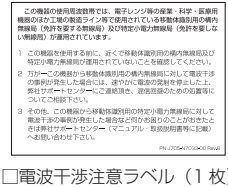
□WLCB-11 V2 本体

□ユーティリティーディスク
（CD-ROM　1 枚）



□取扱説明書（本書）

□製品保証書



□電波干渉注意ラベル（1 枚）

使用環境を確認しよう

本製品を接続する前に、以下の項目を確認し、☑のようにチェックを付けてください。

注意! 企業などで本製品を利用する場合は、ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な機器の準備、設定を行ってください。

チェック1
パソコンの環境は問題ないですか？

本製品は、次のパソコン、オペレーティングシステム（OS）に対応しています。本製品を取り付けるパソコンが以下の条件を満たしているか、確認してください。

対応パソコン	・CardBus対応のPCカードスロット（TypeII）を搭載している ・CD-ROM ドライブが装備されている ・PC/AT互換機、またはPC98-NX（NEC社製）
対応オペレーティングシステム	・Windows 98（Second Edition を含む） ・Windows Me ・Windows 2000 ・Windows XP Professional(32bit)/Home Edition

注意! 本製品を含め、LANアダプターを2つ以上動作させた場合の動作保証はしておりません。

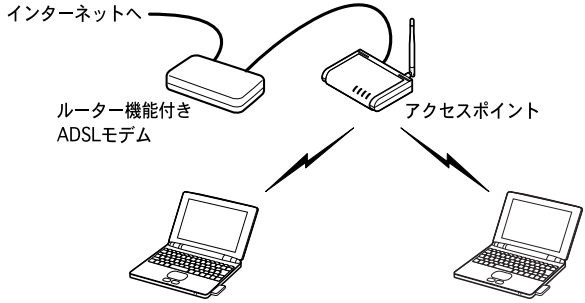
メモ 本製品の使用中は、パソコンのレジューム、サスペンド、省電力機能を使用しないでください。これらの機能を無効にする方法については、各パソコンメーカーにお問い合わせください。

チェック2
無線 LAN でどんなことをしますか？

無線LANには、「インフラストラクチャーモード」と「アドホックモード」の2種類の通信モードがあります。無線 LAN でどんなことをするかによって、使用するモードが異なります。モードが異なると、ネットワークの設定も大きく変わります。無線LANでどんなことをしたいか、そのためにはどちらのモードを使うか、ここで確認しておいてください。

● アクセスポイントを使ってインターネットに接続するなら「インフラストラクチャーモード（Infrastructure mode)」

「インターネット接続を家族みんなで共有したい」「ケーブルなしでインターネットに接続したい」といった場合には、次の図のように、アクセスポイントを使ってインターネット接続をします。このときには「インフラストラクチャーモード（Infrastructure mode)」にします。



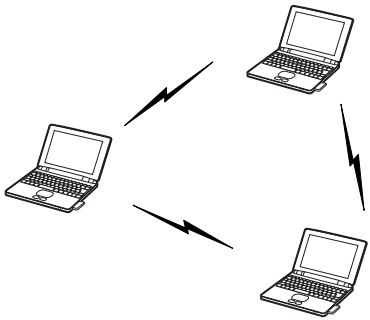
アクセスポイントとパソコンが通信をする方式です。アクセスポイントがADSLやCATV、ISDNに接続されていれば、インターネットにもアクセスできるようになります。

また、既にケーブルを使ってネットワークが構築されている環境に、無線LAN を追加するときなども、インフラストラクチャーモードにします。

(メモ)　アクセスポイントは、別途ご購入いただく必要があります。

● パソコン同士でファイルのやり取りをするだけなら「アドホックモード（AdHoc mode)」

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要です。次の図のように、無線LAN機能があるパソコン同士で直接通信をします。このときには「アドホックモード（AdHoc mode)」にします。



チェック3
通信相手の機器は準備できていますか？

本製品は、「IEEE802.11b」規格に対応しています。通信相手の機器が、「IEEE802.11b」規格に対応しているか、確認してください。
また、通信相手の機器で、無線LANに必要な設定をしておいてください。設定方法については、各機器の取扱説明書を参照してください。

メモ
- アクセスポイントには、不正アクセスを防止するためセキュリティシステムとして、登録したMACアドレスと一致しない無線LANアダプターからのアクセスを拒否する機能（MACアドレスフィルタリングなど）があります。この機能が有効になっているアクセスポイントと接続する場合は、アクセスポイントの取扱説明書を参照して本製品のMACアドレスをアクセスポイントに登録しておいてください。
- 接続の可否については、無線LAN機器のメーカーまたは販売店にお問い合わせください。
- 「IEEE802.11a」規格の無線 LAN 機器とは接続できません。

チェック4

通信環境は問題ないですか？

周辺の環境（障害物など）、通信相手機器の性能、相手側機器との距離などにより、通信速度、距離が大きく変動します。
通信速度や距離を改善するためのヒントを、「PART4　トラブルや疑問があったら」「より安定した通信をするには？」（P.51）で紹介しています。

チェック5

設定に必要な情報は準備できていますか？

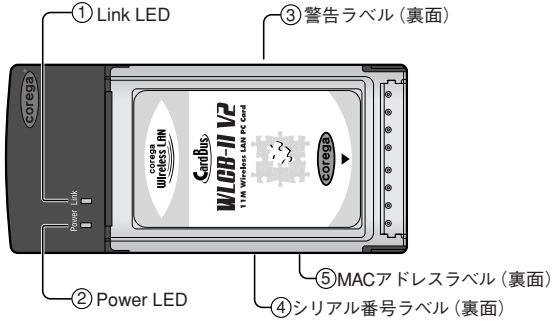
本製品の設定をするには、次の情報が必要になります。

注意! 会社などで既存のLANに無線で接続する場合は、ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な情報を準備してください。

ESSID	無線ＬＡＮに接続する機器を識別する名前です。「SSID」と呼ばれることもあります。通信相手の機器と同じにします。通信相手の機器で設定されている「ESSID」を確認しておいてください。
チャンネル（アドホックモードの場合）	使用する電波の周波数（無線チャンネル）です。通信相手の機器と同じにします。通信相手の機器で設定されているチャンネルを確認しておいてください。
暗号キー（WEPキー）（通信相手にも暗号が設定されている場合）	通信するデータを保護するための暗号です。必要に応じて設定します。暗号キーは、通信相手の機器と同じにします。通信相手の機器で暗号キーを設定している場合は、設定されている暗号キーを確認しておいてください。 設定について詳しくは、PART3を参照してください。

各部の名称と機能を覚えよう

●本体表面



① Link LED（緑）

点灯：Link が確立している状態
点滅：通信相手先の検索中
消灯：Link が確立していない状態

② Power LED（緑）

点灯：電源が供給されている状態
消灯：電源が供給されていない状態

③警告ラベル（裏面）

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

④シリアル番号ラベル（裏面）

本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

⑤ MAC アドレスラベル（裏面）

本製品のMACアドレスが記載されています。

メモ　裏面のラベルに記載されている 2.4 DS 4 は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
伝送方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

ソフトウェアをインストールする

●インストールする前の確認

本書ではご使用のパソコンのCD-ROMドライブをDドライブ（D:）と想定して説明しています。ドライブ名が異なる場合は、ご使用のCD-ROMドライブ名（「E」、「Q」など）に読み替えてください。

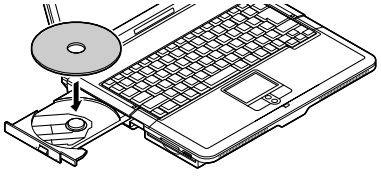
●ソフトウェアのインストール

本製品を使用するためのソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）を、パソコンにインストールする方法を説明します。ここでは、Windows XPの画面を使用して説明しています。基本的な操作は、Windows XP/2000/Me/98で共通です。差異のある操作等に関しては、該当の記載内容を参照してください。

注意! ・Windows XPの場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンしてください。
・Windows 2000の場合は、「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザー名でログオンしてください。

1 ユーティリティーディスクをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

注意! まだ、パソコンに本製品を取り付けないでください。

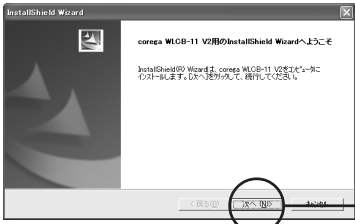


2 「スタート」ボタン（スタート）から「マイコンピュータ」をクリックします。（Windows 2000/Me/98の場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックします）。

3 CD-ROMアイコン(または)をダブルクリックし、「Setup」をダブルクリックします。

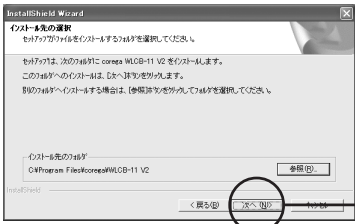
「InstallShield Wizard」が起動します。

4 「次へ」をクリックします。



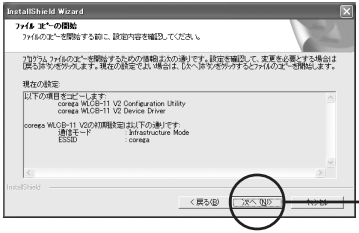
「インストール先の選択」が表示されます。

5 「次へ」をクリックします。



「ファイル コピーの開始」と表示されます。

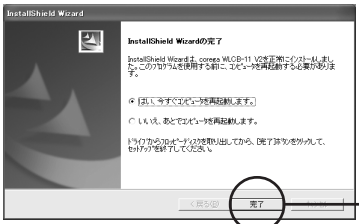
6 「現在の設定」欄の内容を確認したら、「次へ」をクリックします。



インストールが行われ、しばらくすると「InstallShield Wizardの完了」と再起動を促すメッセージが表示されます。

メモ ご使用のパソコンによっては、「ロックされたファイルの検出」画面が表示される場合があります。「無視」をクリックしてインストールを続行してください。

7 ユーティリティーディスクをCD-ROMドライブから取り出し、「完了」をクリックします。
パソコンが自動的に再起動します。



メモ ご使用のパソコンによっては、「使用中のドライブへの取り出し要求」画面が表示される場合があります。「OK」をクリックしてインストールを続行してください。

これでソフトウェアのインストールは完了です。次に「本製品をパソコンに取り付ける」（P.18）に進んでください。

本製品をパソコンに取り付ける

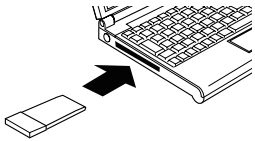
● 本製品を取り付けるときの注意

- 本製品を取り付ける前に、必ず「ソフトウェアをインストールする」(P.15) の作業を行ってください。
- CardBus 非対応のPC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。無理に挿入しようとすると、PCカード、またはPC カードスロットを破損する恐れがあります。
- Windows XPの場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンする必要があります。
- Windows 2000の場合は、「Administrator」またはAdministrators グループのユーザー名でログオンする必要があります。
- 本製品をパソコンに取り付けるときに他のPCカードと物理的に干渉する場合は、故障の原因になりますので他のPCカードを取り外してから取り付けてください。

● 本製品の取り付け手順

1 本製品を、表裏や差し込む向きに注意して、PCカードスロットの奥までまっすぐ差し込みます。

注意! ・PCカードスロットの位置は、お使いのパソコンによって異なります。
・PCカードの向きを間違って取り付けると、本製品やパソコンの故障の原因になります。カードの向きや取り付け方について詳しくは、パソコンに添付の取扱説明書をご覧ください。

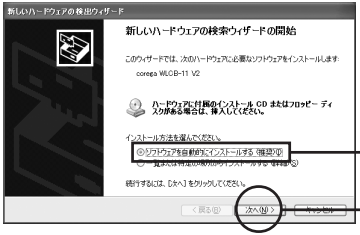


ソフトウェアの互換性やデジタル署名などWindows上での動作保証についてのメッセージが表示された場合は、「続行」または「はい」をクリックしてインストールを続けてください。弊社にて動作確認済みです。

本製品を取り付けた後、新しいハードウェアの検出と、それに伴う必要なソフトウェアのインストールを行うかどうかの確認メッセージが表示された場合は、画面の説明にしたがい、そのままインストール作業を続けてください。

Windows XPの場合は、次の手順で必要なソフトウェアをインストールしてください。

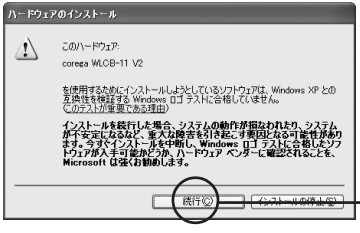
1 「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」と表示されたら「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択して「次へ」をクリックします。



①選択します。

②クリックします。

2 「Windowsロゴテストに合格していない」旨のメッセージが表示されたら、「続行」をクリックします。

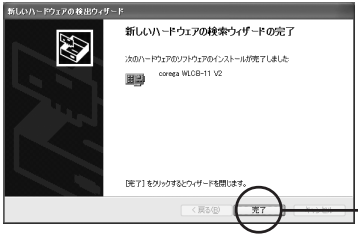


クリックします。

メモ 動作については弊社において確認済みです。

インストールが行われます。しばらくすると「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」が表示されます。

3 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら「完了」をクリックします。



次に「本製品が正しく動作しているか確認する」（P.21）で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

本製品が正しく動作しているか確認する

本製品のインストールが正常に行われていることを確認します。本製品がパソコンに正常に認識されているかどうかの確認方法は次の通りです。

- デバイスマネージャで確認する場合
  「「デバイスマネージャ」で確認する」(本ページ) へ進んでください。
- 無線アイコンの表示で確認する場合
  「無線アイコンの表示を確認する」(P.22) へ進んでください。

■「デバイスマネージャ」で確認する

メモ　デバイスマネージャの表示方法について

デバイスマネージャの表示方法は、ご使用の OS によって異なります。表示方法は以下の通りです。

● Windows XP の場合

① 「スタート」ボタンから「マイコンピュータ」をクリックし、「システム情報を表示する」をクリックします。
② 「システムのプロパティ」の「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

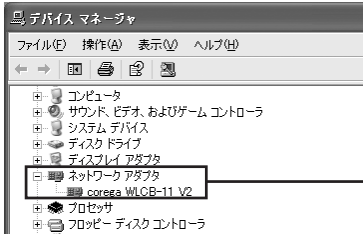
● Windows 2000 の場合

① デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
② 「システムのプロパティ」の「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

● Windows Me/98 の場合

① デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
② 「システムのプロパティ」の「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

1 「デバイスマネージャ」を開いて「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega WLCB-11 V2」が表示されます。



デバイスのアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いている場合、またはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「PART4 トラブルや疑問があったら」（P.46）をご覧ください。

次に無線LANの設定をします。「PART3　無線LANの設定をしよう」（P.24）に進んでください。

■ 無線アイコンの表示を確認する

インストール完了後、本製品が正常に認識されると、タスクバーに無線アイコンが表示されます。

工場出荷時は、通信モードが「Infrastructure」に設定されています。アクセスポイントとの接続状況によって表示される無線アイコンが以下のように変化します。

・アクセスポイントと通信されている場合：

・アクセスポイントと通信されていない場合：

次に無線LANの設定をします。「PART3　無線LANの設定をしよう」（P.24）に進んでください。

本製品の取り外し

本製品をPCカードスロットから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

注意!
- 本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。
- 以下の操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び取り付けてください。

1 画面右下のタスクトレイ上のまたは、をクリックし、「corega WLCB-11 V2を安全に取り外します」をクリックします。(ご使用のOSにより下線部の表示は、中止や停止するという意味の内容になります。)

2 安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

3 本製品をPCカードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。
再度使用する場合は、そのままPCカードスロットに取り付けると使用できます。

PART3 無線LANの設定をしよう

パソコンのネットワーク設定を確認する

無線LANでデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要です。

●インターネットに接続するとき

本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するにはTCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

・ Windows XPの場合

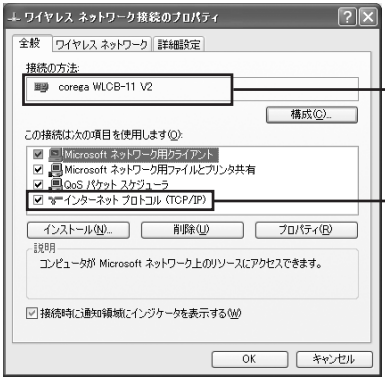
1 「スタート」−「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。



①ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

②チェックマークが入っていることを確認してください。

6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

7 「全般」タブを選択し、次のように設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

8 「OK」ボタンをクリックします。

9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。
メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器のマニュアルを参照して、設定を行ってください。

・ Windows 2000 の場合

注意! この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OSの取扱説明書を参照してください。

1 「スタート」−「設定」−「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

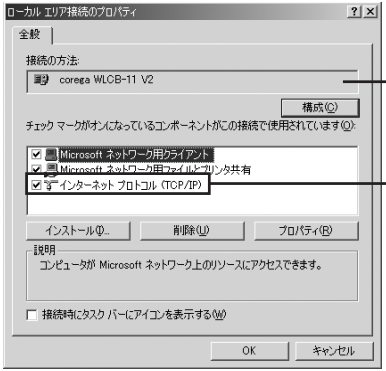
2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

①「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックします。

②「プロパティ」をクリックします。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。



①ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

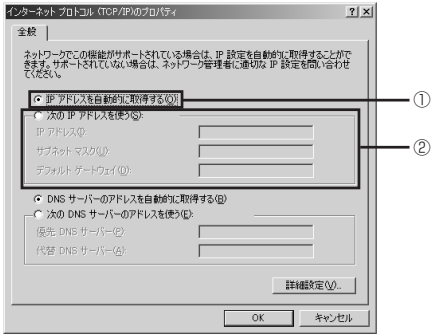
②チェックマークが入っていることを確認してください。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 次のようにIPアドレスの設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。



6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックします。

8 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

(メモ) メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器のマニュアルを参照して、設定を行ってください。

・ **Windows Me/98 の場合**

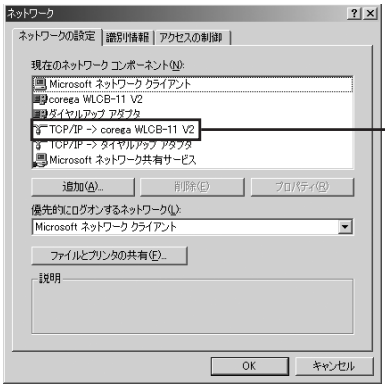
ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98をご使用の場合も手順は同様です。

1 「スタート」−「設定」−「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(メモ) Windows Meの場合、「ネットワーク」アイコンが表示されない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。

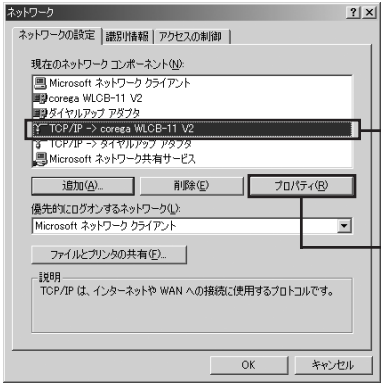
3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP ー>corega WLCB-11 V2」が表示されていることを確認します。



ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。
※ネットワークアダプタが本製品だけの場合は「TCP/IP」と表示されます。

3

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP ー>corega WLCB-11 V2」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

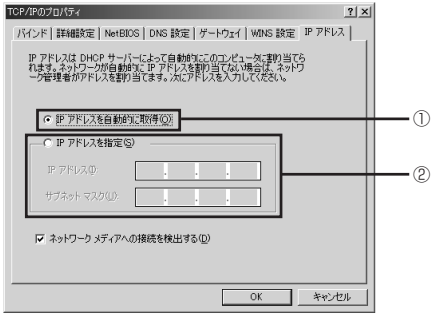


5 「IPアドレス」タブで、次のように設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

注意! 詳しくはルーターメーカー、プロバイダー等にご確認ください。



3

6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の、「OK」ボタンをクリックします。

メモ WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。
再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

●他のパソコンとファイルやプリンターの共有をするとき

使用するネットワーク環境に応じて、次のような設定を行ってください。設定方法について詳しくは、Windowsのマニュアルやヘルプを参照してください。企業などで利用する場合は、ネットワーク管理者に設定内容を確認してください。

・必要なサービスやプロトコルを追加、有効にする
・コンピューター名とワークグループ名を設定する
・フォルダーやプリンターの共有設定をする

これで無線LANを使って他のパソコンとファイルのやりとりをしたり、インターネットへ接続したりできるようになります。

次に「無線LANの設定をする」（P.32）に進んでください。

無線 LAN の設定をする

ユーティリティーを使用して本製品で無線通信するための設定を行います。設定が終わったら、通信できるかどうか確認します。

● ユーティリティーを表示する

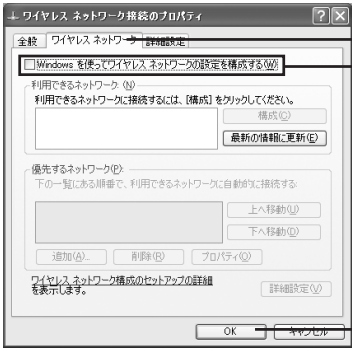
注意! 設定を行うときは、通信相手の機器（アクセスポイントなど）の電波が届く場所に本製品を取り付けたパソコンを置いてください。通信相手の機器の電波が届かない場所で設定を行っても、通信相手の機器が正しく認識されないことがあります。

・ Windows XP の場合

1 「スタート」-「コントロールパネル」−「ネットワークとインターネット接続」−「ネットワーク接続」の順にクリックします。

2 「ワイヤレスネットワーク接続 corega WLCB-11 V2」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックします。
「Windowsを使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する」のチェックを外し「OK」をクリックします。



①クリックします。

②クリックしてチェックを外します。

③クリックします。

4 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン(または)を右クリックして、表示されたメニューから をクリックし、ユーティリティーをいったん終了します。

5 「スタート」−「プログラム」(Windows XPの場合は「すべてのプログラム」)−「corega WLCB-11 V2」−「WLCB-11 V2 Configuration Utilty」をクリックします。

6 デスクトップ右下に表示された無線アイコン(または)をダブルクリックします。

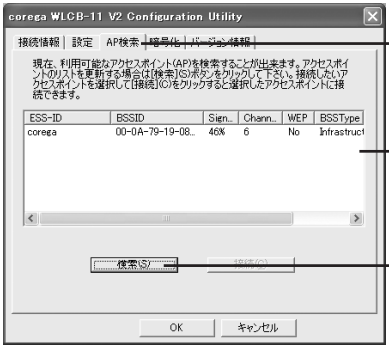
・ **Windows 2000/Me/98 の場合**

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン(または)をダブルクリックします。

3

● 通信相手先の検索をする

1 「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されたら、「AP検索」タブをクリックします。
しばらくすると、検索された無線LAN機器が表示されます。



①クリックします。

②この欄に接続できる無線 LAN 機器が表示されます。

③しばらく待っても検索できないときはここをクリックします。

注意! 「Windowsを使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する」のチェックがついた状態ではユーティリティの「設定」、「暗号化」タブが表示されません。

メモ 「検索」をクリックしても接続したい無線LAN機器が表示されないときは、相手側無線LAN機器でESSIDを検出できないように設定されている可能性があります。相手側無線LAN機器の設定を確認してください。

2 接続できる無線LAN機器が表示されたら、接続したい無線LAN機器を、クリックして反転表示させます。

3 「接続」をクリックします。

無線アイコンが無線LAN機器と接続された状態（ ）になります。

注意! ・AP検索で表示された無線LAN機器のうち、WEPの設定をしているものは、同じWEPを設定しないと、接続できません。
・この手順で接続をした場合は、ユーティリティーの「設定」タブの内容には反映されません。

これで無線 LAN 機器と通信できるようになりました。
相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、またはインターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。うまくいかない場合は、「PART4 トラブルや疑問があったら」（P.46）をご覧ください。

次に「接続状態を確認しよう」（P.38）に進んでください。

● 通信相手先が表示されなかった場合

「AP 検索」画面で通信相手先が表示されなかった場合は、各通信モードに合わせて設定を行います。

・インフラストラクチャーモードの場合は、「インフラストラクチャーモードの場合」（P.35）に進みます。
・アドホックモードの場合は、「アドホックモードの場合」（P.36）に進みます。

〈インフラストラクチャーモードの場合〉

アクセスポイントを使用して無線LANに接続するときは、次のように設定します。

1 アクセスポイントを起動しておきます。

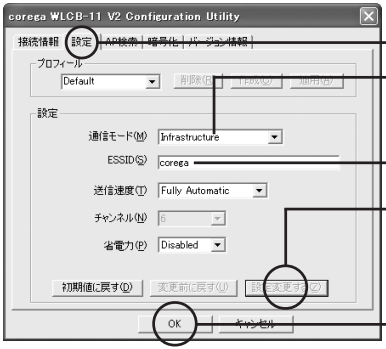
2 無線アイコンをダブルクリックし、「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されたら「設定」タブをクリックして、表示される画面で次のように設定します。

注意! ・「設定」タブ内の「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する必要があります。アクセスポイント側に設定されているESSID の調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。

・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

メモ 工場出荷時には、ESSID は「corega」に設定されています。



無線アイコンがアクセスポイントと接続された状態( )になります。

「設定」タブのその他の設定項目については、「「設定」タブのその他の設定項目について」(P.37)をご覧ください。

〈アドホックモードの場合〉

同じESSID を設定した無線LAN 機器同士で通信するときは、次のように設定します。

メモ　本製品のアドホックモードは、802.11 アドホックモードです。

1 無線LANの設定が完了している機器を起動しておきます。

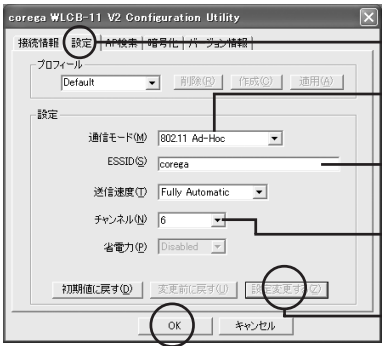
2 無線アイコンをダブルクリックし、「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されたら「設定」タブをクリックして、表示される画面で次のように設定します。

注意! ・「設定」タブ内の「ESSID」欄には、通信相手側機器と同じESSIDを入力する必要があります。通信相手側機器に設定されているESSID の調べ方については、通信相手側機器に取り付けられている無線LANアダプターに添付の取扱説明書をご覧ください。

・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

メモ　工場出荷時には、ESSID は「corega」に設定されています。



①クリックします。

②「802.11 Ad-Hoc」を選択します。

③通信相手側機器と同じESSIDを入力します。

④通信相手側機器と同じチャンネルを選択します。

⑤設定が完了したら「設定変更する」をクリックします。

⑥クリックします。

無線アイコンが無線LAN機器と接続された状態（ ）になります。

メモ 「設定」タブのその他の設定項目について

・プロファイル

現在の「設定」タブの設定内容に名前を付けてリストに登録できます。登録したい設定の状態で名前を入力し「作成」をクリックします。登録した設定情報を呼び出すときは、リストからプロファイル名を選択し「適用」をクリックします。設定情報を削除したい場合はリストから削除するプロファイル名を選択し、「削除」をクリックします。

・省電力

「Enabled」を選択すると、本製品を省電力モードで運用できます。省電力モードの場合、無通信時に本製品への電力供給が自動的に抑えられ、バッテリーで動作するコンピューターの場合、省電力モードを使用しない場合に比べて稼働時間が長くなります。省電力モードに設定した場合、環境によっては通常より通信状況が悪くなることがあります。そのような場合には、「Disabled」に設定してください。

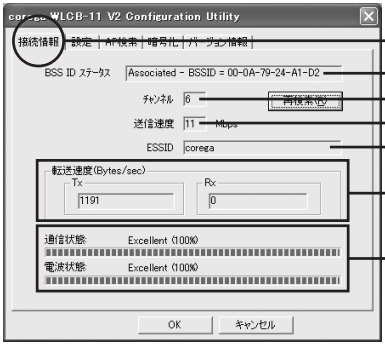
※「802.11 Ad-Hoc」モードでは使用できません。

接続状態を確認しよう

ユーティリティーを使って無線LAN通信の接続状態を確認します。

1 タスクバーに表示されている無線アイコンをダブルクリックします。

2 「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されたら「接続情報」タブをクリックします。現在の無線LAN通信の状態が表示されます。



①BSSIDステータス:現在の無線接続の状況を表示します。「Associated」(接続中)、「Searching」(通信相手の検索中)、「Disconnected」(未接続)の3種類で表示されます。アクセスポイントに接続している場合は、アクセスポイントのBSSID(MACアドレス)が表示されます。「再検索」ボタンをクリックした場合や、複数のアクセスポイントがある環境でローミング(移動)を行う際にも「Searching」と表示されます。

②チャンネル:現在使用しているチャンネル番号が表示されます。

③送信速度:現在の送信速度のモードが表示されます(Mビット/秒)。

④ESSID:現在接続中の無線LANのESSIDが表示されます。

⑤動作状況(パケット):パソコンを起動してから通信したデータ量を累計で表示します。累計値はパソコンを再起動するとリセットされます。

⑥通信状態、電波状態:現在の状態が3段階評価(「Excellent」、「Good」、「Poor」)で表示されます。

メモ
- 「corega WLCB-11 V2 Configration Utility」をはじめて起動したときは、「接続情報」画面が表示されます。
- 802.11Ad-Hocモード時には「通信状態」、「電波状態」は表示されません。
- 「再検索」ボタンをクリックするとアクセスポイントの検索が開始されます。通信状態が不安定な場合等に、アクセスポイントに接続し直すことができます。また、複数のアクセスポイントを使用したローミング環境下では、より電波の強いアクセスポイントに接続し直されます。
- 「corega WLCB-11 V2 Configration Utility」で表示される内容（通信状態・電波状態等）はあくまでも目安になりますのでご注意ください。

次に「セキュリティーの設定をしよう」（P.40）に進んでください。

セキュリティーの設定をしよう

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティー機能を用意しています。

●通信内容を暗号化する WEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化すると、仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。このWEP機能を有効にして通信データを暗号化することをお勧めします。
ただし、通信相手側機器もWEP機能を持っていないと使えません。

本製品は、「64Bit」と「128Bit」の２種類のWEPに対応しています。「128Bit WEP」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。

・「64Bit WEP」：16進数で10桁の暗号キーを利用可能
・「128Bit WEP」：16進数で26桁の暗号キーを利用可能

メモ
・「128Bit WEP」を使用する場合は、メモリーの消費量が増加するため、無線ネットワークのパフォーマンスに多少影響があります。
・アクセスポイントを使って通信を行うときは、アクセスポイント側にもWEP暗号化の設定が必要になります。設定方法は、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
・通信する無線LAN機器はすべて同じ暗号キーを使用する必要があります。

設定方法については、「WEP（Wired Equivalent Privacy）の設定」（P.41）を参照してください。

●通信相手を識別するためのESSID（Extended Service Set IDentifier）

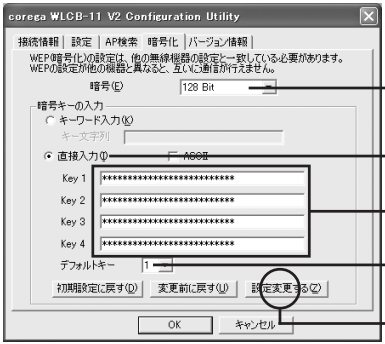
無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。
設定方法については、このPARTの「無線LANの設定をする」（P.32）を参照してください。

● WEP（Wired Equivalent Privacy）の設定

注意! ・WEP機能を使用する場合は、通信相手の機器が暗号キー機能を持っている必要があります。
・通信する無線 LAN 機器はすべて同じ暗号キーを使用する必要があります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイの無線アイコン(または)をダブルクリックします。
「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されます。

2 「暗号化」タブをクリックし、表示される画面で次のように設定します。



①「暗号」欄から「64Bit」または「128Bit」のどちらかを選択します。
メモ 相手側機器と同じWEP に設定してください。
②「直接入力」を選択します。
③「暗号キーの入力」欄に直接暗号キーを入力します。
「64Bit」を選択した場合は16進数で10桁、「128Bit」を選択した場合は、16進数で26桁の暗号キーを入力します。

注意! ・通信相手側機器と同じ暗号キーを使ってください。異なった暗号キーでは通信できません。
・暗号キーは0～9、a～fまでの半角英数字で入力してください。
・入力欄はすべて入力してください。桁数が少ないと、WEP暗号化ができません。
・「初期設定に戻す」をクリックすると、入力した「暗号化」タブ内の設定が初期値に戻ります。

④「デフォルトキー」欄から、使用する暗号キー(Key1～4)を選択します。
⑤「設定変更する」をクリックします。
セキュリティーを確保するため、「設定変更する」をクリックすると入力した暗号キーは"＊"で表示されます。

これで通信内容を暗号化できるようになりました。

メモ 「暗号化」タブのその他の設定項目について

・キーワード入力
「キー文字列」欄に入力した任意の文字列から暗号キーを生成する場合にクリックします。
・キー文字列
「キーワード入力」選択時に入力できます。相手側無線LAN機器と同じ文字列を入力します。
・ASCII
「直接入力」選択時のみ設定可能です。Key1～4に入力した任意の文字列から暗号キーが生成されます。半角英数文字で「64Bit」選択時は5文字、「128Bit」選択時は13文字の暗号キーを入力します。

ユーティリティーを見てみよう

ここでは、本製品の設定ユーティリティー「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」について説明します。本製品の設定や接続状態の確認は、このユーティリティーを使って行うことができます。ユーティリティでは、以下のことが行えます。

タブ名	内容
接続情報	現在の接続状態が表示されます。正常に通信が行われているかどうか、確認できます。詳しくは、このPARTの「接続状態を確認しよう」(P.38) を参照してください。
設定	通信モードやESSID、WEPなど、無線LANに接続するための本製品の設定を行うことができます。詳しくは、このPARTの「無線LANの設定をする」(P.32) を参照してください。
AP検索	利用可能なアクセスポイントの検索、一覧表示ができます。
暗号化	WEP機能による無線通信の暗号化の設定ができます。詳しくは、このPARTの「セキュリティーの設定をしよう」(P.40) を参照してください。
バージョン情報	本製品のソフトウェアの現在のバージョンを確認できます。

■ユーティリティーの画面を表示する

ユーティリティーはパソコンの起動時に自動的に起動し、常駐しています。ユーティリティーの画面を表示するには、次の手順で操作します。

注意! 設定を行うときは、通信相手の機器の電波が届く場所に本製品を取り付けたパソコンが置かれていることを確認してください。通信相手の機器の電波が届かない場所で設定を行っても、通信相手の機器が正しく認識されないことがあります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン(または)をダブルクリックして、ユーティリティーを表示します。

● ユーティリティーの画面を消す

画面右上の**×**をクリックすると、ユーティリティーの画面が消えます。この状態では、画面は消えますが、ユーティリティーは終了していません。

●ユーティリティーを終了する

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン（ または ）を右クリックして、表示されたメニューから

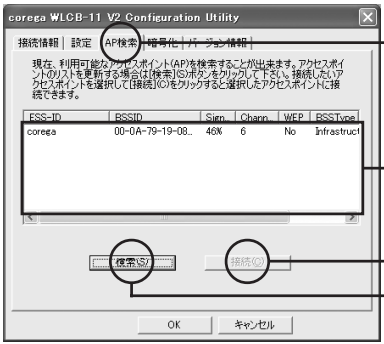
をクリックします。

再度、ユーティリティーを起動するときは、「スタート」－「プログラム」（Windows XPの場合は「すべてのプログラム」）－「corega WLCB-11 V2」－「WLCB-11 V2 Configuration Utility」をクリックします。

■「AP検索」タブについて

複数のアクセスポイントを使用して、ローミング環境を構築している場合に利用可能なアクセスポイントを検索できます。
「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されたら「AP検索」タブを選択します。

メモ
- アクセスポイントが1台だけの場合、アクセスポイント検索機能は無効です。
- 通常、アクセスポイントの検索は、自動的に行われます。
- 主に次のような条件を満たす接続相手がリストアップされます。
  - 802.11 アドホックモードに設定されている無線LAN機器
  - 「ブロードキャストSSID」が有効になっているアクセスポイント
- アクセスポイントにWEPが設定されている場合は、同じ暗号キーを設定しなければ接続できません。



項目名	説明
①検索	複数のアクセスポイントから接続したいアクセスポイントを探したい場合にクリックしてください。新たにアクセスポイントを検索できます。 ※本製品は、リストに表示されません。
②接続	リストから接続したい無線LAN機器をクリックして反転表示させた後、クリックしてください。目的の無線LAN機器に接続できます。

■「バージョン情報」タブについて

「corega WLCB-11 V2 Configuration Utility」が表示されたら「バージョン情報」タブを選択します。
本製品のソフトウェアの現在のバージョンが表示されます。

PART4 トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、この章で解決方法を探してください。

解決のステップ

①取扱説明書を再確認する。管理者に確認する

⇩

②この章の Q&A を確認する
本製品用ソフトウェアのインストールができない
「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない
「デバイスマネージャ」で「×」が付く
ソフトウェアを削除するには？
最新のドライバーやユーティリティーを入手したい

⇩

③コレガのホームページの情報を活用する

⇩

④それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

メモ　コレガのホームページのアドレス、サポート窓口の連絡先、営業時間などについては、巻末の「製品に関するご質問は…」（P.58）を参照してください。

取扱説明書を再確認する。管理者に確認する

本書以外にも通信相手の機器の取扱説明書、パソコンに添付の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、通信相手の機器の問題で正しく動作しないこともあります。

このほか…

・企業などでお使いの場合は … ネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。ネットワーク管理部門などに確認してください。
・インターネットにつながらないときは … インターネットプロバイダーから送られてきた各種設定項目を確認して、設定してください。

Q&A

■本製品用ソフトウェアのインストールができない

メモ ・ソフトウェアのインストール方法は、P.15 で紹介しています。
・最新のソフトウェアは、コレガのホームページで提供しています。

次のことを確認してください。

● 本製品に対応の機種、OS をお使いですか?

「PART1 まず準備が必要」「チェック 1 パソコンの環境は問題ないですか？」（P.10）を参照して確認してください。

● インストール権限のあるユーザーですか?

Windows 2000 や Windows XP では、「Administrator」や「コンピューターの管理者」権限を持つユーザーでないと、ソフトウェアのインストールやネットワークの設定ができないことがあります。

●「マイコンピュータ」に CD-ROM ドライブが表示されていて、使える状態になっていますか?

使用できない状態の場合は、パソコンメーカーにお問い合わせください。

● 本製品をパソコンに取り付けた状態でインストールしていませんか?
本製品は、ソフトウェアのインストール後に取り付けてください。本製品をパソコンに取り付けた状態でソフトウェアのインストール作業を始めた場合は、セットアップをキャンセルし、本製品を取り外してから再度インストールしてください。

■「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない

本製品のアイコンが以下のようになっている場合は、本製品のソフトウェアのインストールに失敗しています。このようなときは、本製品のソフトウェアをいったん削除し、再インストールしてください。
・「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入った
・「ネットワークアダプタ」の項目がない
・「corega WLCB-11 V2」アイコンに「!」「?」マークが付く
・「corega WLCB-11 V2」アイコンが２つ以上ある

メモ　Windows 2000をお使いの場合、「本製品の取り外し」(P.23) の手順で、をクリックした後、本製品を取り外すまで一時的に、デバイスマネージャの「corega WLCB-11 V2」アイコンに「!」が付きますが、ドライバーのインストールの失敗ではありません。

1 「その他のデバイス」「不明なデバイス」「ネットワークアダプタ」の下の不正にインストールされた「corega WLCB-11 V2」アイコンを右クリックし、「削除」をクリックします。

2 「デバイスの削除の確認」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。

3 パソコンの電源を切った後、本製品を取り外します。

4 パソコンの電源を入れてこのPARTの「ソフトウェアを削除するには？」(P.46)を参照して、ソフトウェアを削除します。

5 「PART2　本製品をパソコンに取り付けよう」「ソフトウェアをインストールする」(P.15)を参照して、ソフトウェアを再インストールします。

■「デバイスマネージャ」で「×」が付く

「デバイスマネージャ」の「corega WLCB-11 V2」アイコンに「×」マークが付いているときは、本製品が「使用不可」または「無効」に設定されています。
次の手順で、本製品を使用できるように設定してください。

● Windows Me/98 の場合

1 「デバイスマネージャ」の「corega WLCB-11 V2」をクリックして選択(反転表示)し、「プロパティ」をクリックします。
「全般」タブが表示されます。

2 「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックを外し、「すべてのハードウェアプロファイルで使用する」にチェックを付けます。

3 「OK」をクリックします。

● Windows XP/2000 の場合

1 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega WLCB-11 V2」を右クリックして「有効」を選択します。

■ソフトウェアを削除するには？

本製品用ソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）をパソコンから削除する方法を説明します。

1 「本製品の取り外し」(P.23)の手順を参照して、パソコンから本製品を取り外します。

注意! 本製品を取り付けた状態で以下の手順を実行すると、正常にソフトウェアの削除が行えない場合があります。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「corega WLCB-11 V2」→「Uninstall」の順にクリックします。
「ファイル削除の確認」が表示されます。

3 「OK」をクリックします。
ソフトウェアの削除が行われ、しばらくすると「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。

メモ 途中で「共有ファイルの検出」が表示される場合があります。その場合は「いいえ」をクリックしてください。

4 「完了」をクリックします。

これでソフトウェアの削除は終了です。

■通信ができない

● CardBus 対応の PC カードスロットにセットしていますか?

PCカードタイプの場合、本製品をセットしているPCカードスロットが、CardBusに対応しているか確認してください。CardBus非対応のPCカードスロットに本製品をセットしても、本製品は動作しません。無理に差し込もうとすると、本製品やPC カードスロットを破損する恐れがありますので、ご注意ください。

● 本製品は正しく取り付けられていますか?

パソコンの PC カードスロットや PCI スロットに本製品がきちんと差し込まれているか再確認してください。パソコンの電源が入っている状態で「Power LED」が点灯していれば、正しく取り付けられています。

● 本製品用ソフトウェアは、インストールされていますか?

「PART2　本製品をパソコンに取り付けよう」「ソフトウェアをインストールする」（P.15）を参照してインストールしてください。

●ネットワークの設定は済んでいますか?

「PART3　無線 LAN の設定をしよう」（P.24）を参照して、設定してください。

● 通信相手の機器は、このパソコンと通信できるタイプですか?

無線LANにはいくつかの方式があり、同じ方式を使う機器でないと通信できません。「PART1　まず準備が必要」「チェック3　通信相手の機器は準備できていますか？」（P.12）を参照して確認してください。

● セキュリティーの設定を確認してください

「PART3　無線 LAN の設定をしよう」「セキュリティーの設定をしよう」（P.40）を参照して、セキュリティーの設定を確認してください。特に、すでに無線LANが構築されている環境に機器を追加するときなどは注意が必要です。アクセスポイント側で「WEP 暗号化」を設定している場合は、本製品を取り付けたパソコン側にも同じ暗号を設定してください。

● ESSID を確認してください

通信相手の ESSID と本製品の ESSID が同じになっていないと通信ができません。「PART3　無線 LAN の設定をしよう」（P.24）を参照して、本製品の ESSID を通信相手に合わせて設定してください。

メモ　コレガのアクセスポイント製品の ESSID または SSID の初期設定は、「corega」になっています。

■ユーティリティーに表示されないタブがある

WindowsXPではユーティリティーのインストール直後はユーティリティーの機能の一部が使用できません。「PART3　無線LANの設定をしよう」「無線LANの設定をする」（P.32）を参照して、ユーティリティーを表示させてください。

注意!　Windows XPの「ワイヤレスネットワーク接続」を使用しての動作保障はしておりません。必ずユーティリティをご使用ください。

■より安定した通信をするには？

● 相手側の無線 LAN 機器との距離を近づける
● 相手側の無線 LAN 機器との間に障害物を置かない
● 金属製のラックなどに無線 LAN 機器を設置しない

通信速度が遅い、通信が途切れるような場合は、まず各機器の距離を近づけて試してください。また、相手側機器との間に、壁や床、金属製の家具などがあると、通信に影響することもあります。

●電子レンジや医療機器から離して使用する

意外に思うかもしれませんが、電子レンジは無線LANの大敵です。電子レンジが調理に使う電磁波と、無線 LAN が使用する周波数が近いため影響が出てしまいます。

● パソコンの向きを変えてみる

パソコンの向きを変えると本製品のアンテナの向きも変わって、電波が入りやすくなることもあります。

● 設定を変更してみる

アドホックモードのときは、チャンネルを変更すると通信が安定することがあります。このほかのネットワークの設定変更も試してください。

■通信速度が遅い

メモ　通信速度や通信距離を確保するための情報をこのPARTの「より安定した通信をするには？」（本ページ）で紹介しています。あわせて参照してください。

● 通信相手側機器との距離を確認してください。
通信相手側機器との距離によって、通信速度が大きく変わることがあります。

● 電子レンジを使用していませんか?
電子レンジで使用される電磁波は、無線LANで使用される周波数に近いので、無線LANに影響を与えることがあります。

●無線を利用した家電を使用していませんか？
2.4GHzの無線を使用した家電（液晶テレビやオーディオ機器など）は無線LANで使用される周波数に近いので、無線LANに影響を与えることがあります。

● 複数台のパソコンで、無線LANを使っていませんか?
無線LANで接続されているパソコンが多くなると、それぞれの通信速度が遅くなります。アクセスポイントに接続するパソコンの台数を減らしてみてください。

■「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない

「マイネットワーク」の「ローカルネットワーク」に他のパソコンが表示されない場合は、現在設定中のパソコンが属している「ワークグループ」または「ドメイン」と一致していない可能性があります。詳しくは、パソコンメーカーにお問い合わせください。

● Windows Me/98の場合

1 「スタート」−「設定」−「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「識別情報」タブをクリックします。
「識別情報」タブの画面が表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows 2000の場合

1 デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。

2 「ネットワークID」タブをクリックして、「プロパティ」をクリックします。

「識別の変更」ウィンドウが表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows XP の場合

1 「スタート」−「マイコンピュータ」の順にクリックします。

2 画面左の「システムのタスク」にある「システム情報を表示する」をクリックします。
「システムのプロパティ」が表示されます。

3 「コンピュータ名」タブをクリックして、「変更」をクリックします。

4 「コンピュータ名の変更」から、表示したいパソコンと同一の「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

■ホットスポットサービスを利用するには？

ホットスポットのサービス提供形態はさまざまで、無料で公開されているもの、会員制で手続きが必要なものなどがあります。
「DHCP を使う」「ESSID は ANY または空欄」が一般的な設定です。詳しくはホットスポットの管理者などにお問い合わせください。

メモ 不特定多数に向けてサービスされている「ホットスポット」は、便利な反面、セキュリティー上の問題も考えられます。次のような方法で対策をしてください。詳しくは、Windows、各ソフトウェアのマニュアルやヘルプを参照してください。
・ファイルやフォルダーの共有をしないようにする
・ファイルやフォルダーにパスワードを設定する
・ウイルス検出ソフトやファイアウォールソフトを組み合わせて使う

■最新のドライバーやユーティリティーを入手したい

改良などのために予告なく、本製品のドライバーやユーティリティーのバージョンアップ、パッチレベルアップを行うことがあります。
最新の情報は、コレガのホームページから入手することができます。

付録

製品仕様

製品名	
corega WLCB-11 V2	
無線 LAN	
サポート規格	（国際規格）IEEE802.11、IEEE802.11b （国内規格）ARIB STD-T66、RCR STD-33
周波数帯域	2.4～2.497GHz
チャンネル数	14（1～14ch）
伝送方式	DS-SS 方式（直接拡散型スペクトラム拡散方式）
伝送速度	11／5.5／2／1Mbps（自動切り替え）
セキュリティー	WEP（64／128bit）、ESSID
通信モード	Infrastructure 、802.11 AdHoc
ローミング	IEEE802.11 準拠
PC インターフェース	
PC カード（Type Ⅱ）	
サポート規格	PC Card Standard（CardBus）Type Ⅱ
電源	
PC インターフェースから供給	
動作電圧	DC3.3V
消費電流	送信時： 420mA 、受信時： 280mA
環境条件	
動作時温度	0～40℃
動作時湿度	90%以下（結露なきこと）
保管時温度	－20～60℃
保管時湿度	90%以下（結露なきこと）
外形寸法	
54（W）× 115（D）× 5（H）mm	

質量
36g
取得承認
EMI 規格 VCCI クラス B 、技術基準適合認定

工場出荷時の設定

本製品は工場出荷時は以下の設定となっています。

通信モード	Infrastructure
ESSID	corega
送信速度	Fully Automatic
チャンネル	6
省電力	Disabled
暗号	Disabled

MAC アドレスについて

本製品のMACアドレスは、本体裏面に記入されています。MACアドレスは本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。
「PART1 まず準備が必要」「各部の名称と機能を覚えよう」（P.14）を参照して、MACアドレスを確認してください。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2003 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。
2003 年 7 月 Rev.A 初版

保証と修理について

■保証について

製品保証書裏面に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、裏表紙に記載の必要事項をご記入の上、保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシート等可）を添付し、弊社修理センター宛てに製品（付属品一式を含む）を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- 修理期間中の代替機等は弊社では用意しておりませんので、予めご了承ください。
- 保証書に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
- 製品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。
- 弊社修理センターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。普通郵便による送付は固くお断りいたします。
- 修理期間は、製品到着後、約 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

製品に関するご質問は・・・

製品に関するご質問は、電話、FAX、メールで受け付けております。お客様のご都合に合わせて、お問い合わせください。
なお、お問い合わせの際には、下記の必要事項をお知らせください。

■電話、FAX でのお問い合わせ先

corega　サポートセンター
TEL.045-476-6268
FAX.045-476-6294

＜受付時間＞
10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 18:00　月～金（祝・祭日を除く）

■メールでのお問い合わせ先

弊社ホームページからお問い合わせいただけます。
メールの送信方法など詳しくは、ホームページの「よくあるお問い合わせ」をご確認ください。

～弊社ホームページのご案内～

弊社ホームページでは、各種商品の最新の情報、最新ファームウェア、よくあるお問い合わせなどを提供しています。本製品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

http://www.corega.co.jp/

■修理品受付け先

〒 222-0033　横浜市港北区新横浜 1-19-20
corega　修理センター
（詳しくは、「保証と修理について」（このページの裏）を参照してください）

■お問い合わせ修理依頼に関する必要事項

あらかじめ下記の必要事項を控えておいてください。

・製品名
・シリアル番号（S/N）、リビジョンコード（Rev.）
・お名前、フリガナ
・連絡先電話番号、FAX 番号
・購入店
・購入日付
・お問い合わせ内容（できる限り詳しくお知らせください）